

### (3) 地域社会への支援活動

月に1度、クリーンキャンペーンとして地域清掃活動を行っています。また、七夕まつり後の清掃活動にも参加。福祉活動でのボランティア活動も行っています。

### (4) 健康づくり、サークル会、催しなど

絵手紙、エコクラフト、パソコン教室、囲碁教室、お茶、ダンス、カラオケ、おしゃべり、うたごえなどのたくさんのサークル活動が榎町つどいのひろばで定期的実施されています。



## 役員の皆さんの声

- 会員を増やしたい。子育て支援の活動などから、若い世代にも関心を持ってもらうようにしている。高齢者も、元気であればいくつになっても働くということは大切。数多くあるサークル活動を通じて関心を持ってもらえたらと期待している。
- クリーンキャンペーンの活動をしていると、周辺の人が「ごころうさま」と声をかけてくれるようになった。一般の人がいっしょに活動してくれるようになり、こうした活動が広がっていくと良い。
- 活動が楽しい、仲間ができるなどの目に見える効果が大切。イベントをうまくしかけていくことも大事。



ナルク茂原役員の皆さんと市民の会委員

- 榎町付近には3つの高齢者福祉施設がある。高齢者が集えるコンパクトシティのような「高齢者のまち」を期待したい。
- ボランティアに対して「立派である」とか「特殊な人がやっている」という考え方が根強い。もっと気軽に取りかかれるような工夫や意識の改革が必要ではないか。



## 取材を終えて

取材の中で、「私はお年寄りと子どもが大好きで、役に立てることがうれしい」「高齢者が高齢者を支える時代。80になっても元気であれば働けることが幸せ」という言葉が心に残りました。また、ナルクの基本理念である「自助」「助け合い」「奉仕」「生きがい」は高齢社会のキーワードであると思いました。

茂原市の人口は約9万2千人です。人の役に立てることがあれば力になりたいと思っている人は少なくないのではないのでしょうか。

これから高齢社会、一人暮らしの高齢者は増えてきます。地域ぐるみでのふれあい、助け合いのシステムづくりは緊急の課題です。

ちょっとした、あるいはささやかなボランティアならできるという人もいるかもしれません。

市全体をひとまとめにするには大きすぎます。ナルクのようにブロックに分け、地域ごとにボランティアを募り、ボランティアを受けたい人とのコーディネート（調整）を図るようなシステムができれば素晴らしいと思います。

茂原市には福祉センターが6か所あり、活用できないものかと感じました。

また、「子どもあそびひろば」のような子ども向けのイベントに行政も参画して、もっと規模を大きくし、子どもの居場所や遊び場を街中につくってはどうかとも考えました。

## ご意見をお寄せください！

茂原市の「自治基本条例」を考えるためには、市民の皆さんがどのようなまちのあり方を望んでいるか、その考えを取り込みながら、今後のまちづくりのためにはどのような基本原則を盛り込むべきなのかを考えていくことが必要です。ぜひ、皆さんのご意見をお寄せください。

茂原市自治基本条例を考える市民の会  
事務局 茂原市役所企画政策課



ケータイからもお寄せいただけます

FAX 0475-20-1603  
E-mail kikaku@city.mobara.chiba.jp